

「エコフレンドリー-ASANUMA21」

～地球に優しくをかたちにして～

概要

(2021年4月改定)

株式会社 浅沼組

「エコフレンドリー-ASANUMA21」とは持続可能な社会の実現のために、浅沼組の事業活動を環境影響の側面から捉え、その保全活動についてまとめたものです。

目 次

◆エコフレンドリーASANUMA21 振り返りと改定に向けて	1
◆「改定版」エコフレンドリーASANUMA21（2021年度～）	
● 基本方針及び各施策	2
● 【脱炭素化の推進】	
1. 建造物の長寿命化による脱炭素化の推進	3
2. 運用段階における脱炭素化の推進	5
3. 施工段階における脱炭素化の推進	6
● 【資源の循環】	
1. 建設副産物の発生抑制	7
2. 建設副産物のリサイクルと適正処理	8
3. 再生資材の積極的活用	8
● 【自然・社会との共生】	
1. 自然環境と生物多様性の保全	10
2. 施工による有害な環境影響の抑制	11
3. 社会との共生	12
◆エコフレンドリーASANUMA21とSDGs	13

これまでの変遷

○2010年～2019年

- ・2010年『地球に優しくをかたちにします』のスローガンの基、全社的な地球温暖化防止対策活動「エコフレンドリーASANUMA21」をスタート。
- ・作業所では「施工高1億円当たりのCO₂排出量を2020年度までに1990年比40%削減」という目標を設定し、「作業所における温暖化防止対策ガイドライン」に則りCO₂削減活動を開始。
- ・CO₂削減実績については毎年発行するCSR報告書にて報告。

○2020年

- ・CO₂削減目標の最終年度となる。順調に推移しており目標達成見込み。
- ・10月菅総理所信表明にて、脱炭素社会実現に向け「2050までに、温室効果ガスの排出を実質ゼロにする」と表明。これを受け「エコフレンドリーASANUMA21」改定に向けて検討開始。

主な改定内容

○3つの基本方針を設定

- ・持続可能な社会の実現に向けて、「脱炭素化の推進」、「資源の循環」、「自然・社会との共生」の3つの基本方針を設定。

○新たな「施工段階におけるCO₂削減目標」の設定

- ・長期ビジョン（～2050年）を見据えたCO₂削減目標を新たに設定。

○SDGsへの貢献

- ・各施策に対するSDGs割当ての細分化により、職員の更なる意識付けを図る。

○「ReQuality」リニューアルブランド戦略の取込み

- ・2021年4月から開始する「ReQuality」リニューアルブランド戦略及び新たなライフサイクルサポートサービスである「GOOD CYCLE PROJECT」で展開する施策を「エコフレンドリーASANUMA21」へ取り込み、環境保全という側面からその取組みをまとめた。

エコフレンドリー ASANUMA21

基本方針および各施策

<p>【脱炭素化の推進】 ～脱炭素社会の実現に向けて～</p>	
<p>1, 建造物の長寿命化による脱炭素化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①長寿命化のための建物診断 ②長寿命化のための技術の活用 ③長寿命化のための技術開発 	<p>2, 運用段階における脱炭素化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①脱炭素建物の設計 ②脱炭素技術の開発 <p>3, 施工段階における脱炭素化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①施工段階でのCO₂削減 ②長期的なCO₂削減目標の設定
<p>【資源の循環】 ～循環型社会の実現に向けて～</p>	<p>【自然・社会との共生】 ～自然・社会との共生をめざして～</p>
<p>1, 建設副産物の発生抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> ①建設副産物の発生抑制への取組み <p>2, 建設副産物のリサイクルと適正処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ①建設副産物のリサイクルの推進と適正処理の取組み <p>3, 再生資材の積極的活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ①再資源化された資材を積極的に活用する 	<p>1, 自然環境と生物多様性の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生物多様性の保全 ②現地の土砂の活用 <p>2, 施工による有害な環境影響の抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> ①有害物質の適正処理 ②地域環境への配慮 <p>3, 社会との共生</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地域との連携 ②社会への貢献

【脱炭素化の推進】



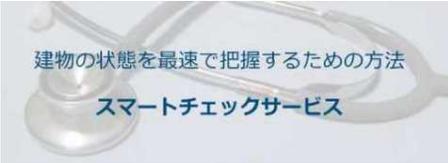
1 建造物の長寿命化による脱炭素化の推進 ～脱炭素社会の実現に向けて～

施工現場から排出するCO₂の約7割が重機などで使用する軽油に由来しています。建替え工事(解体・新築)では重機の使用頻度が多く、長寿命化施工(リニューアル・耐震改修)により建造物を長持ちさせることはCO₂排出量を抑え脱炭素社会の実現に大きく寄与すると私たちは考えています。浅沼組の持つ長寿命化のノウハウ・技術力を活かして脱炭素社会の実現に貢献します。

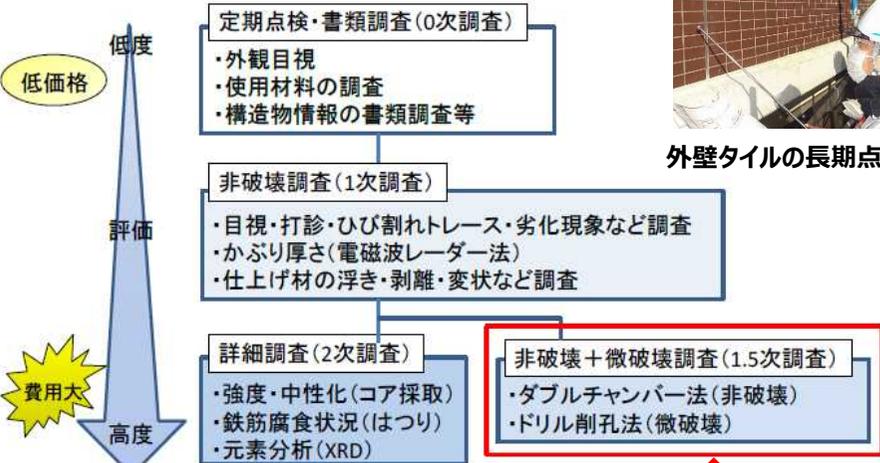
① 長寿命化のための建物診断 ～脱炭素社会の実現に向けて～

建物を合理的に長持ちさせるためには、現状での劣化度を適切に評価し、タイムリーに維持・保全工事を行うことが必要です。浅沼組はそれを可能にする様々な取組みを行なっています。

- **スマートチェックサービス**
 - ・建物の構造・設備の劣化度や耐震性から、省エネ性能や使い易さまでを総合的にチェックする簡易診断です。
- **長期点検制度**
 - ・竣工後4年次、7年次の事業主への訪問面談及び竣工後9～9.5年の訪問点検を実施し、建物の維持管理に必要なノウハウをアドバイスしています。
- **外壁タイル長期点検制度**
 - ・竣工後9～9.5年の外壁タイルの点検を実施し、剥落による危険の予防や修繕の必要性を診断しています。
- **劣化診断システム**
 - ・既存建造物の劣化診断時にコンクリートコアを採取する(2次調査)することなく(微破壊調査(1.5次調査))簡易にかつ高度な耐久性評価を可能とする浅沼組独自の劣化調査診断システムです。(右図参照)



外壁タイルの長期点検制度



② 長寿命化のための技術の活用

～脱炭素社会の実現に向けて～

〔 浅沼組は長寿命化に資する技術を保有し、又その活用を推進しています 〕

●RM安震ブロック

・安震ブロックは「RMユニットの組積」で施工するため場所をとらず、建物を使用しながら工事を行うことができます。

●スムーズフィルクリート・スーパーフィルクリート

・無収縮コンクリートであり、圧入が可能となる高い流動性を有しており、耐震改修工事で広く採用されます。近年、施工済み物件で乾燥収縮の測定を実施した結果ひび割れの発生もなく、スムーズフィルクリートの耐久性の高さが証明されました。

●CCB-NAC工法

・鉄筋コンクリート造耐震壁の収縮ひび割れの発生を抑制する工法で建造物の長寿命化を実現します。



RM安震ブロック



スムーズフィルクリート



CCB-NAC工法

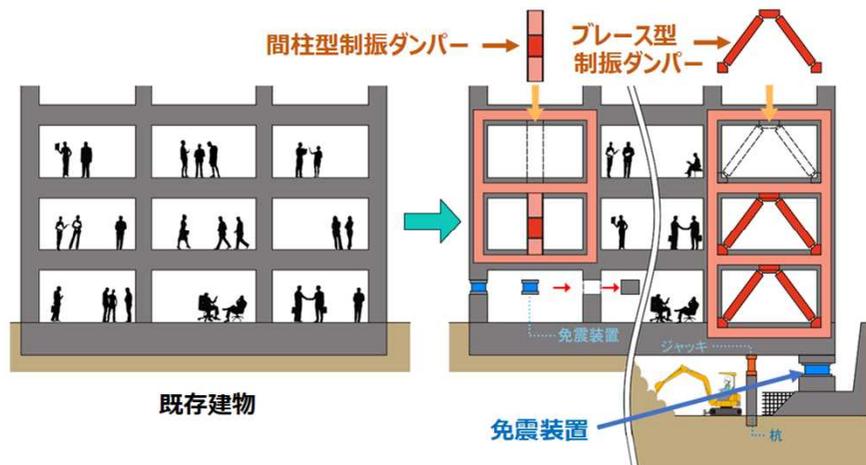
③長寿命化のための技術開発

～脱炭素社会の実現に向けて～

〔 浅沼組は建造物の長寿命化に資する技術開発に力を入れています 〕

●制振・免震レトロフィット技術

・既存建物を免震構造や制振構造に改修する技術であり、地震時の揺れを大幅に抑制することが可能となります。



●地震モニタリングシステム

・建物に設置したセンサー及び通信設備によって、地震時の揺れを即時に分析し、建物の被災度・健全性等を建物所有者へ速報するシステムです。



いつでも、どこからでも、建物の状態を確認できます

我が国のCO₂排出量の1/3は住宅・建築物に係るものであり、その大部分を建物の運用段階でのCO₂排出量が占めています。浅沼組は受注から企画・設計に至るまで適用可能な脱炭素化技術を提案し、採用に向けて力を入れています。又、新たな脱炭素技術の開発にも取り組んでいます。

①脱炭素建物の設計

～脱炭素社会の実現に向けて～

〔 建築物の脱炭素設計に取り組み、運用段階でのCO₂削減に力を入れます 〕

●CASBEE、ZEBへの取り組み

- ・設計物件の省エネルギー化の推進
- ・CASBEE Aランク以上を目指す
- ・ZEB認証、WELL認証の取得を目指す

※当社、名古屋支店改修工事（2021年竣工）でZEB Ready認証取得予定



②脱炭素化技術の開発

～脱炭素社会の実現に向けて～

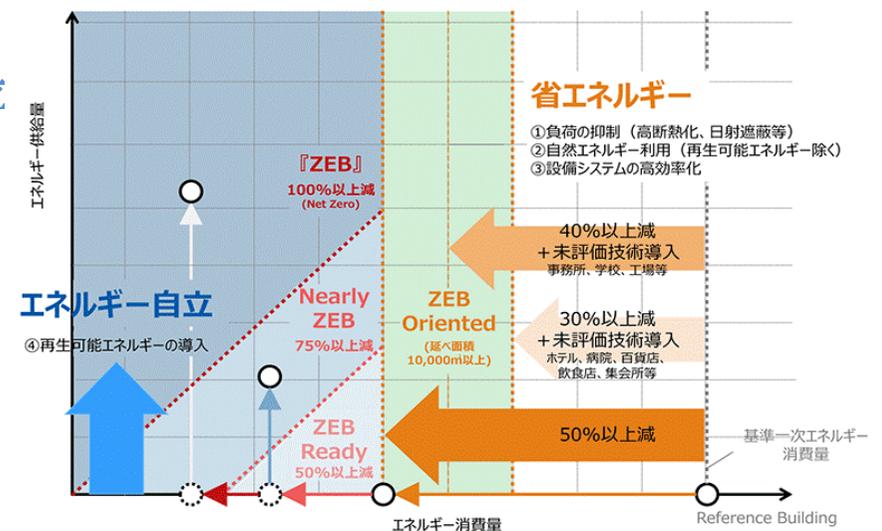
〔 浅沼組は脱炭素化技術の開発に力を入れています 〕

●空間環境に資する技術開発と環境影響評価技術の確立 (ZEB/WELL・シミュレーション)

- ・騒音解析技術、音環境シミュレーション技術の習得と確立。
- ・ZEB認証取得推進、WELL認証取得技術の整備。

●環境配慮型コンクリート

- ・CO₂排出量を最大60%まで削減可能な脱炭素型のコンクリートで、2020年10月に「建設材料技術性能証明」を取得。
- ・高炉スラグ微粉末やフライアッシュなどの建設副産物をセメントと置換することにより、高いレベルでのCO₂発生抑制を実現します。
- ・当社の子会社支店改修工事採用済みで、今後の他の工事(設計施工物件)への採用を推進します。



ZEB：省エネ（右から左へ）と創エネ（下から上へ）による環境評価

2010年エコフレンドリーASANUMA21発足時のCO₂削減目標「施工高1億円当たりのCO₂排出量を2020年度までに1990年比40%削減」は今年度で基準年度(2020年度)に達しました。

社会情勢の変化に対応すべく2050年までの長期的な削減目標を新たに定め、施工段階における更なるCO₂削減に挑戦します。

①施工段階でのCO₂削減

建設現場でのCO₂排出量の約7割を占める軽油の使用量を削減するため、重機使用時の省燃費運転を推進しています。又、施工段階でのCO₂削減に効果的な方法をまとめた「作業所地球温暖化防止対策ガイドライン」を作成し、その活用に力をいれています。

- 低燃費運転の座学及び実技教育の実施
- 作業所の「地球温暖化防止ガイドライン」の活用



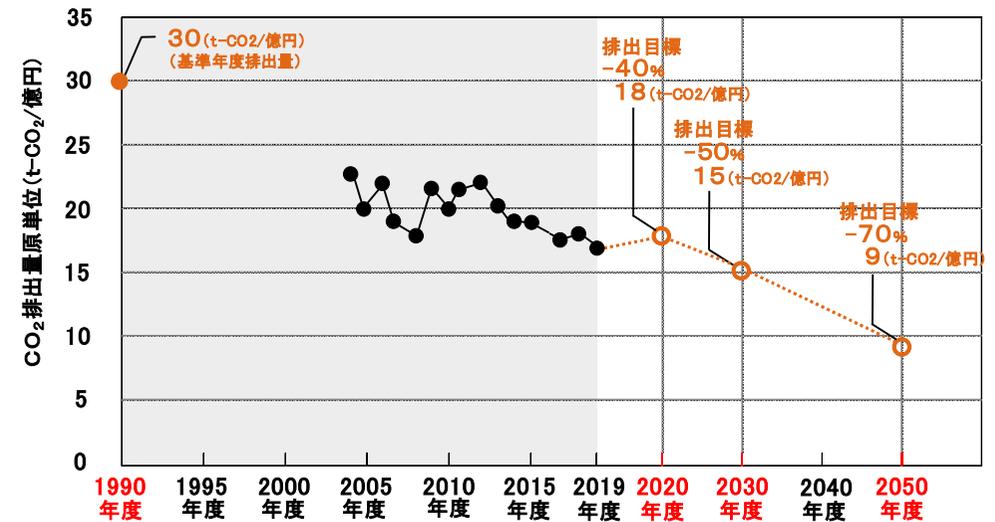
省燃費運転マニュアル



地球温暖化防止ガイドライン

②長期的なCO₂削減目標の設定

◆2021年度からの長期的なCO₂削減目標を設定◆
 「施工高1億円当たりのCO₂排出量を1990年比で2030年までに50%、2050年までに70%削減」



脱炭素化の推進	取組み項目	指標(KPI)/2021年度目標数値	
長寿命化技術の活用促進	・劣化診断システムの採用	・3件/年	施工
	・スムースフィルクリート・スーパーフィルクリート、安震ブロック、CCB工法の採用	・10件/年以上	
脱炭素建物の設計	・省エネ提案の推進	・適用可能物件について省エネ提案を実施中*	設計
	・環境配慮設計の推進	・CASBEE Aランク以上 50%以上	
施工現場でのCO ₂ 削減の取組み	・低燃費運転の指導	・60%以上/1作業所	施工
	・「地球温暖化防止対策ガイドライン」の活用	・3件以上/1作業所	

*：今後、定量的目標値を設定予定

1

建築副産物の発生抑制

～循環型社会の実現に向けて～

循環型社会の実現のためには、まず製品等が廃棄物になることを抑制しなければなりません。浅沼組は計画段階から製品を出来る限り有効に利用し、建設副産物の発生を抑制する取組みを行っています。

①建設副産物の発生抑制への取組み

～循環型社会の実現に向けて～

●建設汚泥・コンガラ等の「自ら利用」及び土砂の仮置き、現場間利用に努める

- 建設汚泥やコンクリートからは一定の条件を満たせば現場内で再生し、資材として使用出来ます。浅沼組は「自ら利用」の制度を積極的に活用します。
- 現場で掘削した土砂は、出来る限り敷地内に堆積し埋戻し土として使用します。又、掘削土砂を他の現場の埋戻し土に使用し建設発生土の場外処分を少なくする取組みを行っています。



ガラバゴスによるコンガラの自ら利用



リテラによる建設汚泥の自ら利用



掘削土の場内仮置きによる再利用

●資材のプレカット化、ユニット化、家具化

- 山留めの矢板、型枠のパネル、加工鉄筋、ALC、LGS、造作材、建具枠等木工事、クローゼット、下足入れ等

●省梱包化と梱包材の再使用

- 資材の梱包を簡易化し廃棄物の発生を抑制します。

●内勤オフィス分野の取組

- コピー紙などの裏面を利用します。
- ファイル類は再利用します。
- ペーパーレス化に努めます。



ペーパーレス化の推進



コピー用紙の裏紙使用推進

作業所から排出する建設副産物については、出来る限りリサイクルし易いように分別することを徹底しています。又、不適正処理を防止するために法令知識の習得やICTの活用に積極的に取り組んでいます。

①建設副産物のリサイクルの促進と適正処理の取組み

～循環型社会の実現に向けて～

●作業所から発生する廃棄物の分別の徹底

- 作業所から発生する廃棄物を出来る限り分別することにより、処分業者での再資源化を容易にします。
- 建設リサイクル法に則り、協力会社を巻き込んでリサイクルの促進に努めています。



廃棄物の分別の徹底



建設リサイクル法の順守

●適正処理の推進

- 法令違反のリスクを軽減するために、産業廃棄物処理に係る契約書・ manifestsの電子化を推進しています。
- 2018年から㈱イーリバースドットコムが提供する「産廃電子委託契約サービス(er-contract)」の運用を開始し活用を推進しています。 ※2020年度電子委託契約締結数は業界7位の実績*
- 職員に対し、産業廃棄物処理を中心とした環境法令教育を実施し、法令違反の撲滅に取り組んでいます。



産業廃棄物処理の電子委託契約 (er-contract)



環境法令の実務教育

* : 建設会社2019年度完成工事高上位30社対象

循環型社会の実現のためには廃棄物を再資源化するのみに留まらず、再資源化されたりサイクル製品を積極的に使用することが必要です。浅沼組は再生資源の利用促進に取り組んでいます。

①再生資源化された資材を積極的に活用する

～循環型社会の実現に向けて～

●グリーン調達品の積極的な活用

・リサイクル製品として流通している資材について、品質上問題ないものは出来る限りリサイクル製品の使用を推進しています。



再生砕石



再生アスファルト



再生鋼材



再生木質ボード

●地球に優しい製品の採用を推進しています

①エコマーク

・生活の中で環境をよごさない、環境を改善できると認定された商品

②アールマーク

・古紙を再生利用した紙製品を示す。



③グリーンマーク

・古紙を再生利用した紙製品

④統一省エネラベル

・省エネ法に基づき、小売事業者が省エネ性能の評価を表示している。



資源の循環	取組み項目	指標(KPI)/2021年度目標数値	
施工現場でのリサイクルの促進 と法令知識の習得	・新築工事での廃棄物の分別の徹底	・1.6 kg/m ² 以内 (混合廃棄物量/延べ床面積)	建築施工
	・新設工事での廃棄物の分別の徹底	・1.2 m ³ /億円以内 (混合廃棄物量/請負金額)	土木施工
	・環境管理知識の習得	・5回/年 (教育回数/1年間)	管理

1

自然環境と生物多様性の保全

～自然・社会との共生をめざして～

建設工事においては、常に自然環境に有害な影響を与える懸念があります。私たちは計画段階からその地域の自然環境に溶け込み生物多様性に配慮した取組みを行っています。

①生物多様性の保全

～自然・社会との共生をめざして～

●生物多様性簡易評価ツール「いきものプラス」の活用

- 「いきものプラス」は、設計者が敷地情報や取組み内容をパソコン上で入力することにより、CASBEEの新築(簡易版)における生物多様性に関連した項目の点数を算出し、緑化計画立案を支援するツールです。



生物多様性簡易評価ツール『いきものプラス』

誘致種表示画面



②現地の土砂の活用

～自然・社会との共生をめざして～

●還土ブロックを用いた土壁構築システム

- 土を固める際にはセメントを使用せず自然素材のみで行うためCO₂の排出が無く、又、内装材として使用した場合は吸湿性、放湿性に優れているため、室内空気環境を良好に保つ事ができます。また、廃棄する際は土に戻すことができます。



工事現場の土をブロック化



還土ブロック
10

土壁構築システム



間仕切壁施工事例

建設工事における地域環境への有害な影響を抑制するために、環境対策知識の習得とその実践に力を入れています。

①有害物質の適正処理

～自然・社会との共生をめざして～

解体・改修工事においては「PCB」、「フロン」、「アスベスト」等の有害物質が発生することがあり、これらを適正に処理することが汚染の予防に繋がります。又、工事を通じて「騒音」、「振動」、「粉じん」、「水質汚染」等の有害な環境影響を与える可能性があります。浅沼組は環境マネジメントシステムを活用しこれらの問題に的確に対処します。



有害物質の適正処理



環境パトロールによる指導の徹底



環境実務教育による有害物質処理知識の習得

②地域環境への配慮

～自然・社会との共生をめざして～

浅沼組は工事に伴う環境への有害な影響を低減するために、その工事及び地域に最適な環境対策を提案します。

●騒音・振動対策



作業所の騒音・振動の管理

●粉じん対策



自動タイヤ洗浄機の設置（粉塵発生抑制）

●排水対策



場外排水管理（濁度・PH）

建設工事においては、地域住民に工事について理解して頂きお互いに連携して進めることが重要です。又、浅沼組は社会課題の解決にも力を入れています。

①地域との連携

～自然・社会との共生をめざして～

●地域活動の支援

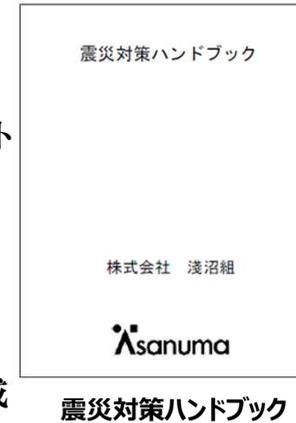
- ・地域清掃活動、地域の祭事への協力

●地域とのコミュニケーション

- ・地域から寄せられる工事に対する苦情については環境マネジメントシステムを活用して、「苦情記録表」等を用いて記録し、改善のために役立っています。

●大規模地震発生時における事業継続

- ・大規模災害時における事業の早期復旧と事業継続による社会や顧客に対する企業責任の遂行を目指し、「大規模地震発生時における事業継続計画(BCP)」及び「震災対策ハンドブック」を作成しています。



震災対策ハンドブック



地域清掃活動への協力

地域美化活動「アドプト・ロード・プログラム」認証取得

②社会への貢献

～自然・社会との共生をめざして～

私たちは、社会の一員として社会のあるべきかたちの実現のため、社員一人ひとりが社会的責任を自覚し、積極的に社会貢献活動を推進していきます。

●地域貢献活動



作業所見学会の受入れ

●防災と災害支援

- ・地域防災活動の役割も担っている奈良市の地域限定放送「ならドットFM番組：岡本彰夫の奈良、奥の奥」に協賛。



●文化・芸術・スポーツ活動支援



日本身体障がい者野球連盟に協賛

自然・社会との共生	取組み項目	指標(KPI)/2021年度目標数値	
有害物質の適正処理のための取組み	・環境パトロールでの指導の徹底（産廃、石綿、フロン、P C B、蛍光灯等）	・不適正処理件数 0件	管理
	・環境管理知識の習得	・5回/年（教育回数/1年間）	
地域・社会との連携	・B C P訓練の実施	・災害対策シミュレーションの実施 1回/年以上	管理
		・安否確認システムの実施 4回/年	
自然素材の積極的活用	・「土壁構築システム」の実用化への取組み	・提案のためのカタログの作成及び営業展開*	営業

*：今後、定量的目標値を設定予定

■ エコフレンドリーASANUMA 21 はSDGsの達成に貢献します ■



- ・WELL認証取得技術の整備
- ・有害物質の適正処理
- ・地域環境への配慮



- ・廃棄物の適正処理のための環境法令教育の充実
- ・有害物質の適正処理のための環境教育の充実



- ・建造物の長寿命化による脱炭素化の推進
- ・運用・施工段階における脱炭素化の推進



- ・ICT化の促進(電子委託契約、電子マニフェスト)



- ・制振・免震レトロフィット技術の開発
- ・建築振動特性調査診断の開発
- ・地震モニタリングシステムの開発
- ・大規模災害発生時の事業継続計画(BCP)の確立



- ・建設副産物の発生抑制とリサイクルの推進
- ・再生資材の積極的活用
- ・建造物の長寿命化への取組み



- ・建造物の長寿命化による脱炭素化の推進
- ・運用・施工段階における脱炭素化の推進
- ・環境配慮型コンクリートの開発



- ・生物多様性簡易評価ツール「いきものプラス」の活用
- ・還土ブロックを用いた土壁構築システムの開発





株式会社 浅沼組



ほこ
誇る歴史がある
つく
創りたい未来がある

お問合せ先

コーポレート・コミュニケーション部

T e l 06-6585-5500 F a x 06-6585-5556